

児童図書研究室だより

2010年5月

「赤ちゃん絵本」について

県立図書館では、「子ども読書の日（4月23日）」にちなんで、毎年4月に「ヨムヨムおはなしまつり」を開催しています。今年は、4月24日（土）に、生後6ヶ月から2歳までの乳幼児と保護者を対象として「ヨムヨムおはなしまつり'10～音を楽しむ絵本の時間～」を実施しました。当日は、会場の県立図書館2階サークル活動室に、乳幼児19人と保護者24人の方が集まり、また、ボランティアも7人の方の協力があり、にぎやかな会となりました。

まず、図書館職員が赤ちゃん絵本について簡単な説明をした後、読み聞かせボランティアによるおはなし会を行いました。おはなし会は、わらべうた2つと4冊の赤ちゃん絵本の読み聞かせを取り入れて20分くらいで行いました。わらべうたは「ちっちゃいまめころころ」と「ここはどうちゃんにんどころ」という親子でスキンシップもできる楽しいものでした。絵本の読み聞かせは、わらべうた絵本「ととけっこうよがあけた」、いろいろな音が出てくる「じゃあじゃあびりびり」、松谷みよ子あかちゃんの本「いないいないばあ」、不思議な音と絵になぜか引きつけられる「カニツンツン」でした。後半は会場に展示している赤ちゃん絵本を使って、親子で自由に読み聞かせをしてもらいました。赤ちゃん絵本についての説明やおはなし会で使用した本と展示した本の選定については、昨年度、国際子ども図書館児童文学連続講座の中で行われた、元アリス館編集長後路好章氏による講演「赤ちゃんは音を食べる」を参考にしました。

今回のおはなしまつりの打ち合わせ会や反省会で話題になったことは、最近特に、乳児や幼児の保護者の方が子どもの本に関心が高く、おはなし会などにも積極的に参加される姿が目立つようになったということです。読書離れが懸念される今日、大変喜ばしいことなのですが、反面、本一辺倒に偏りすぎると、発達段階に合わない本を無理に与えて、却って子どもが本嫌いになる場合もあります。また、どんな本を与えたらいいとか、どんなふうに読み聞かせたらいいとか悩んでいる若いお母さんも多いという話も出ました。おはなし会では、ある程度読み聞かせのきまりのようなのが必要ですが、「親子での読み聞かせはあくまでも私的なものなので、膝に座らせるなどしてリラックスして、読み方も自由でいい」、「そうやって親子で触れ合いながら本に親しむことで、本好きの子が育つのではないか」などの意見のとおり、堅苦しく考えないで、コミュニケーションツールのひとつとして、親子で一緒に本を楽しめばよいことを、おはなし会などを通して伝えていく必要があると感じました。

赤ちゃん絵本やブックスタートについて書かれた本をいくつか紹介します。

「あかちゃんの本箱」ドロシー・バトラー／著 ブック・グローブ社 1989.1

「あかちゃんの絵本箱」こどもと本—おかやま—「あかちゃんの絵本箱」編集委員会／著
吉備人出版 2001.11

「赤ちゃんにどんな絵本を読もうかな」徳永満理／著 かもがわ出版 2009.5

「赤ちゃん絵本をひらいたら」ブックスタート／編著 岩波書店 2010.2

「絵本が目をさますとき」長谷川摂子／著 福音館書店 2010.3

※上記以外の本や行事で配布した資料等については、児童カウンターにお尋ねください。

児童図書研究室展示 『不思議の国のアリス』とその周辺

昨年11月に開催した「近代ファンタジーの誕生～『不思議の国のアリス』が生まれるまで～」の講座内容を基に、『不思議の国のアリス』の作品と作者ルイス・キャロルについてはもちろん、キャロルと親交の深かった作家ジョージ・マクドナルドや挿し絵を描いた画家ジョン・テニエルなどにも着目して、児童書や研究書を展示します。ファンタジーの成立した背景を知ると、今までとは違った視点で作品を楽しめると思います。期間は5月21日から7月14日までです。

時期を同じくして、児童の閲覧室の展示もファンタジーを取り上げます。「ファンタジーの世界を楽しもう」というテーマで、イギリスのファンタジー作品と日本のファンタジー作品を集めて展示します。イギリスのファンタジーは19世紀中頃から現在まで有名な作品がたくさんありますが、あまり知られていないものの中にも、読んでみるとおもしろい作品があったり、昔読んだ懐かしい作品があったりするのです。見慣れない題名の本にもぜひ挑戦してみてください。

佐藤さとるが、著書「ファンタジーの世界」の中で、「明治以降の日本の国情や、私小説を生んでいった日本文学の主流などが、空想物語を軽視し排斥する傾向を持っていたために、ファンタジーの登場を封じこめてしまったと思われる。」と書いているとおり、日本には長らくファンタジーが育つ土壌がなかったようです。しかし、佐藤さとるのコロボックルという小人を主人公とする物語をはじめ、いぬいとみこの「くらやみの谷の小人たち」、日本固有のファンタジーともいえる安房直子の作品、「霧のむこうのふしぎな町」「天井うらのふしぎな友だち」など心温まるファンタジーを得意とする柏葉幸子の作品、上橋菜穂子の「守り人」シリーズ等々、日本のファンタジーも興味深い作品が増えてきているように思います。イギリスのファンタジーと日本のファンタジーを読み比べてみるのもおもしろいかもかもしれません。

平成22年度図書館職員等児童サービス研修会について

市町村図書館職員・学校図書館職員を対象に、毎年9月に開催していた研修会ですが、今年度は、例年どおりの内容に少しプラスして、開催日も6月と9月に1日ずつ2日間に増やして行います。会場は、両日とも県立図書館2階多目的ホールです。日程及び内容は、以下のとおりです。

- 6月25日（金）○講演「ストーリーテリングってなあに？—語りの現場から—」
講師 岡山ストーリーテリング研究会代表 筒井悦子氏
○「2009年話題になった子どもの本」の説明
2日目の分科会の説明及び資料選定
- 9月10日（金）○講演「新しい読物を知る・楽しむ・考える」
講師 財団法人大阪児童文学館 主任専門員 土居安子氏
○分科会
①絵本 ②よみもの ③科学よみもの・調べ学習の本

※詳しくは、各図書館・学校にお配りしている開催要項をご覧ください。

岡山県立図書館サービス第一課児童資料班

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30

tel(086)224-1288

[E-mail: libnet@libnet.pref.okayama.jp](mailto:libnet@libnet.pref.okayama.jp)